

東京新聞

夕刊

中日新聞東京
東京都千代田区内幸町二丁目
〒100-8505 電話 03(6)

講演ライブ 盲目のバイオリニスト

「挑んでつかめ」音楽伴奏



開会式のリハーサルで演奏する増田太郎さん(23日、東京都調布市の味の素スタジアムで)(北村彰撮影)

増田太郎さん 開会式で演奏

二十八日に開幕する東京国体(スポーツ祭東京)の開会式で、盲目のバイオリニスト増田太郎さん(四三)＝東京都三鷹市出身＝が曲を奏でる。躍動感あふれる演奏スタイルは、東日本大震災の被災地で何度も聴衆を魅了してきた。「人には何万通りの生き方があり、出合いがあると伝えたい」。国体に続いて開かれる全国障害者スポーツ大会の開会式では、自作の曲で歌声も披露する予定だ。(梅村武史)



開会式のメイン会場 生まれながらの弱視 ないんじゃない? あとなる味の素スタジアムで、二十歳の時、視力りのままの自分でいいム(調布市)で、二十を失った。徐々に光がんだよ」。目の前が明三日に行われたリハー失われる恐怖、クラスるくなった気がした。サル。背を反らせ、激メイトらに目の不調をバイオリンは五歳かしい動きで弦を弾き始 隠した日々、手術、失ら始め、音を聞いただめると、開会準備に追 明……。絶望のふちで救 けて楽譜が浮かぶ。視われる関係者の視線を われたのは友人の一言 力を失う一方、その才 くだぎ付けにした。 だった。「本当は見え 能はより研ぎ澄ま



まずだ・た ろう 東京都三鷹市出身。

5歳の時、父の勧めでバイオリンを始めた。高校卒業後、音楽プロデューサーの松任谷正隆氏らに師事。フランス人シジャズバイオリニストのステファン・グランプベリ氏(1908-97年)らの影響も受けた。弾きながら歌う独自のスタイルを確立、米ニューヨークなど海外でも演奏を披露している。

「君は挑む、その先の未来へ」(作詞作曲 増田太郎)
君は目指す 光の中
君を待つ その場所へと
君は向かう 振り向かず
一度切りの その瞬間へと
さあ、今 幕が上がる
静かに秘めた誇り抱いて
君は挑む 君はのぞむ
君は描く 君は開く
君は超える 君はつかむ
君は刻む 君は進む
君は生きる

来月開幕の障害者大会 自作の曲披露へ

れ、人生の可能性を押し広げた。「できる」とはいっぱいある」。そう感じた。
十年前から学校をまわって演奏を披露し、子どもたちの悩みにも答える「講演ライブ」を五百回以上続けている。3・11後は、被災地などで復興を支援する公演も十数回重ねてきた。被災者からはたび「ありがとつ」と握手を求められる。「前に進む気持ちを起こさせる力がある」と、音楽の可能性をあらためて実感した。
十月十二日に始まる全国障害者スポーツ大会(スポーツ祭東京)の開会式では、自作の曲「君は挑む、その先の未来へ」を歌う予定だ。スポーツを通じて同じ場に立てた感動や喜びを表現した。東京国体では「音楽で心を一つにしたい」と、全国から集まった選手や観衆に熱い思いを届ける。